

## アレルギー性鼻炎と副鼻腔炎は咽喉頭異常感・咳とどのくらい関連しているか？

兵庫県立加古川病院 耳鼻咽喉科 阪本浩一、吉田尚文

神戸大学大学院 耳鼻咽喉・頭頸部外科 石田春彦

【はじめに】咽喉頭異常感、咳は日常外来で良く遭遇する症候である。その原因として、鼻疾患による後鼻漏が重要な原因と報告されている。しかし、本邦において実地臨床における後鼻漏の存在についての報告は少ない。今回一般病院耳鼻科外来における、咽喉頭異常感、咳嗽を主訴に受診した患者に対する後鼻漏の占める割合、およびその原因としてのアレルギー性鼻炎、慢性副鼻腔炎の関与について検討した。

【対象と方法】2003年8月から2004年7月までの1年間に、兵庫県立加古川病院耳鼻咽喉科を咽喉頭異常感、遷延性咳嗽（3週以上続くもの）を主訴に受診し、急性炎症、腫瘍性病変を除外した74例を対象とした。その内訳は、男性28例、女性46例。年齢は21歳から80歳に分布し平均53.6歳であった。異常感のみを主訴としたものが41例（54%）、咳のみを主訴としたものは12例16%、両者を訴えたものが21例（30%）であった。これらの症例に対し、PPIテストにて酸逆流の評価を行ない、X線、CAP-RAST検査により副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎の診断を行なった。

【結果と考察】咽喉頭異常感の原因として酸逆流は70%に関与し、そのうち酸逆流単独の原因と考えられる例は58%であった。咳の原因として酸逆流は53%に関与し、そのうち酸逆流単独の原因と考えられる例は56%であった。また咽喉頭異常感の原因として後鼻漏は36%に関与し、そのうちアレルギーが原因と考えられる例は59%であった。咳の原因として後鼻漏は50%に関与し、そのうちアレルギーが原因と考えられる例は82%であった。以上より、後鼻漏が、咽喉頭異常感、咳に対して一定の関与をしていた。さらに咳の原因としてアレルギー性鼻炎に伴う後鼻漏の影響が大きい可能性が示唆された。